志木二中だより

令和７年度３月号
令和８年３月２日

志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒
「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

失敗からは知恵が生まれる

校長　島村　直人

寒が過ぎ、日ごとに日差しが明るさを増してきています。そこここの梅の木も、可憐な紅白を装い、春間近を感じさせるこの頃です。令和７年度もあと１カ月を残すのみとなりました。このひと月は、学校運営協議会、県公立入学許可候補者発表、ミートザダンスの発表会、卒業式、修了式・・・と１年のうちでも重要な行事が重なります。生徒には、１年間のまとめと進級・進学への新たな思いを胸にしっかりと過ごし、令和７年度を締めくくってほしいと思っています。

もう随分と昔の話になりますが、私が学生だった頃、「極端に傷つくことを恐れる若者」の存在が社会現象として話題になりました。そして、その傾向はその後加速度的に進行し、失敗や挫折をなるべく避けて通ろうとしたり、傷つけ合うことを恐れるあまり人間関係をうまく結べなくなったり、自ら拒否したりする若者が増え続けています。デジタルネイティブ世代の子供たちでは加速するばかりです。あまり近寄りすぎるとお互いがお互いを傷つけてしまうので、常にある一定の距離をとっての関係にまたイライラする、「ハリネズミのジレンマ」という社会心理学的な用語も冠せられました。失敗し挫折し、傷つき、自信をなくすことは誰にとっても喜ばしいことではありません。

しかし、失敗や挫折のない人生なんてあるのでしょうか。それは偽物です。ことを受験に限っても、たとえ望まぬ進路に終わったとしても、自分の行く学校は自分にとって一番よい学校だと、胸を張って入学するよう励ますのが大人の役目だと思います。生徒たちは、今後様々な経験をする中で人生そのものを学んでいきます。特に若い時にこそ汗を流さないと、年をとってから涙となるものです。

人生は勝者のいないゲームです。私たちの闘いはいつも敗者復活戦だと感じています。いつも勝ち続けてきた人間の挫折の不幸は、人のよく知る所です。勝ったり負けたりしながら、時には何度も何度も負け続けながら、涙の裏側に「心の耐性と優しさ」を自ら育て上げていくのが人間だと思っています。成功からは自信が生まれ、失敗からは知恵が生まれるものです。

本校の卒業生には、決して勝ち続けることのできない人生、たとえ幸福な一日があっても、すぐに新しい日が訪れます。だとすれば、それを楽しむくらいの前向きな気持ちと風雨に打たれ強い鈍感力とを身につけて生きていってほしいと心から願います。この一年間の本校に対するご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。